回	年	講演者	講演題目
1	1946	（なし）	
2	1947	（なし）	
3	1948	（なし）	
4	1949	武藤　俊之助	半導体
		小谷　正雄、霜田　光一	マイクロウェーブの理論と実験
		畑中　武夫	天体物理学最近の発達
		朝永　振一郎	素粒子論
5	1950	高木　豊	強磁性体の分域構造
		藤本　陽一	宇宙線の最近の諸問題
		伊藤　順吉	核磁気共鳴吸収（実験つき）
		今井　功	乱流
		茅　誠司	アメリカ視察談
		小谷　正雄	ヨーロッパ視察談
		中谷　宇吉郎	雪華の研究と近代気象学
6	1951	山口　嘉夫	中間子
		高橋　秀俊	Information Theory
		谷　一郎	超音速飛行
		藤岡　由夫	アメリカ物理学界の視察談
7	1952	早川　幸男	宇宙線の起源
		有住　徹彌	半導体の電子放射について
		友近　晋	第8回国際理論応用力学会議に出席して
8	1953	神田　英蔵	極超低温への発展
		高橋　秀俊	音声の物理学、その目標と現状
		伏見　康治	動力源としての原子力
9	1954	（なし）	
10	1955	朝永　振一郎	量子力学に於ける多体問題
		武田　栄一	原子炉設計の技術的問題
		茅　誠司	ソ連、中共の見聞記（主として金属の研究）
11	1956	藤本　陽一	新粒子
		橋口　隆吉	Radiation Damage
		C. H. Townes	The "Maser" as Spectrometer, Amplifier and Time Standard
12	1957	湯川　秀樹	物理法則における対称性の問題
		伏見　康治	融合反応利用上の問題点
		菊池　正士、渡瀬　譲	中国旅行談
13	1958	坂田　昌一	量子力学の解釈をめぐって
		R. J. Maurer	Imperfection Problems in Solids
		西堀　栄三郎	南極の話
		小野　周	イスタンブールからブルッセルまで3,000キロ
14	1959	今井　功	極超音速流
		前田　憲一	宇宙空間の物理学
		湯川　秀樹	ソビエットの物理学
15	1960	坂田　昌一	素粒子の構造
		力武　常次	地球内部の物理学（ホモロビッチ計画など）
		藤岡　由夫	国際原子力機関より帰りて
		K. Mendelssohn	（低温物理学に関する問題）
16	1961	霜田　光一	量子エレクトロニクス
		小谷　正雄	生物物理
		J. H. Van Vleck	Negative Temperatures
17	1962	熊谷　寛夫	高エネルギー加速器
		Richard M. Bozorth	Magnetic superconductors
18	1963	中嶋　貞雄	超電導と超流動
		上田　良二	電子顕微鏡の進歩（結晶物理学への応用を中心として）
		畑中　武夫	Space research 最近の展望

回	年	講演者	講演題目
19	1964	伏見　康治	核融合プラズマ研究の現状
		大沢　文夫	筋収縮の機構
		鈴木　平	結晶と破壊
		早川　幸男	宇宙論と原子論
		後藤　英一	Magnetic monopole
		坂田　昌一	素粒子論の方法をめぐって
20	1965	山内　恭彦	長岡半太郎先生と日本の物理学
		小林　稔	中間子理論発見の意義
		湯川　秀樹	素粒子論の現状と将来
		永宮　健夫	磁性理論最近の発展
21	1966	三宅　三郎	インドにおける地下宇宙線の観測
		武田　暁	電子シンクロトロンによる素粒子実験の日本における現状
		霜田　光一	量子エレクトロニクスの発展
		上田　良二	超高圧電子顕微鏡とその応用
22	1967	高橋　秀俊	双対性について
		小田　稔	X線天文学
23	1968	吉永　弘	遠赤外域の分光的研究
		大沢　文夫	生物物理学
24	1969	植之原　道行	Solid state electronics
		久保　亮五	統計力学の現状と将来
		湯川　秀樹	素粒子物理学の未来像
25	1970	早川　幸男	宇宙物理学の最近の発展
		松田　博嗣	ランダム系の統計力学
26	1971	宮原　将平	磁性体の物理学の歴史と展望
		諏訪　繁樹	高エネルギー物理学研究所計画
27	1972	寺本　英	（ご都合が悪くなり、中止）
		伏見　康治	核融合研究の現状と将来の展望
28	1973	丸森　寿夫	原子核の集団運動
		寺本　英	生物界における秩序と安定性
29	1974	内山　龍雄	相対性理論の現状
		押田　勇雄	太陽エネルギーの利用
30	1975	松原　武生	固体の相転移
		牧　二郎	新粒子の発見と素粒子理論
31	1976	岡　小天	生物レオロジーの諸問題
		杉本　健三	荷電空間の対称性と弱い相互作用
		Vincent Jaccarino	Resonance in Magnetic Condensed Matter
32	1977	創立100年記念特別講演	
		弥永　昌吉	日本の数学の発展
		朝永　振一郎	物理学とは何だろうか
		M. F. Atiyah	Geometry and Physics
		R. Thom	Limit of Leaves of Analytical Foliations with Singularities
		H. A. Bethe	The Theory of Nuclear Matter
		T. D. Lee	Solitons
		L. Esaki	The Role of Semiconductor Physics in Device Development
		J. Friedel	The Cohesive Properties of Transition Metals
		M. G. K. Menon	The Changing Perspectives of Cosmic Ray Research
		W. K. H. Panofsky	The Experimental Basis for the New Quark Spectroscopy
		K. Oswatitsch	Waves on Wings
		E. Amaldi	Search for Gravitational Waves
33	1978	西川　哲治	高エネルギー加速器科学の現状
		桜井　武麿	太陽炉とその応用
		川村　肇	半導体の物理と化学

回	年	講演者	講演題目
34	1979	小田　稔	X線天文学の進歩とその将来
		森田　正人	ベータ崩壊と弱い相互作用
		伊達　宗行	強磁場の現状
35	1980	小林　稔	朝永先生の学風
		久保　亮五	物理と確率
		木下　是雄	物理と応用物理　−薄膜の研究から−
36	1981	R. Peierls	Recollection of the Early Days of Quantum Mechanics
		鳴海　元	素粒子原子をめぐる物理的諸問題
		小谷　正雄	ヘモグロビンの研究をめぐって
37	1982	福井　謙一	物理学と化学の間
		東　晃	地球の氷・宇宙の氷
		谷川　安孝	湯川博士の物理学と思想
38	1983	S. Chandrasekhar	The Why and the Wherefore of Black Holes
		深井　有	金属と水素　−その研究のひろがり−
		戸田　盛和	波とソリトンのある風景
39	1984	中嶋　貞雄	低温開拓の史的展望
		森　肇	カオスの最近の研究
		山口　嘉夫	最近の素粒子物理学とその将来への展望
40	1985	巽　友正	乱流の現象と物理
		高良　和武	放射光科学の現状と将来
		林　忠四郎	太陽系の形成
41	1986	川路　紳治	二次元電子伝導における量子効果
		R. R. Wilson	Particle Accelerators and International Collaboration
42	1987	外村　彰	電子線ホログラフィーとアハラノフ・ボーム効果
		金　貞欽	Present Status of Research, Education and Manpower of Physics in Korea
		木村　嘉孝	トリスタンの完成
43	1988	野本　憲一	大マゼラン雲の超新星
		Kai Siegbahn	Electron Spectroscopy −A Link Between Physics and Chemistry
		近藤　淳	金属のフェルミ面効果
		Beng Cheok Tan	Status of Physics in Southeast Asian Countries
44	1989	守谷　亨	金属磁性理論の発展　−遍歴性と局在性をめぐって
		小柴　昌俊	素粒子で宇宙を視る
		周　光召	Research of Physics in China, Present and Future
45	1990	吉森　昭夫	最近の固体表面の物理
		郷　信広	蛋白質の立体構造とそのダイナミックス
		Leon Van Hove	The Role of Quark Matter in High Energy Particle and Nuclear Physics
46	1991	佐藤　勝彦	宇宙論　−現状と展望
		上村　洸	物質科学の発展
		Frank Read	Recent Advances in Electron Spectroscopy
47	1992	杉本　大一郎	多体問題用計算機とその宇宙・生命・物性への応用
		山崎　敏光	異常超寿命ハドロン原子
		有馬　朗人	高等教育の充実へ
48	1993	Pierre de Gennes	Adhesion
		谷畑　勇夫	中性子スキンとハロー　−注目される不安定核ビームの利用
		毛利　衛	新しい物理実験としての宇宙
49	1994	川崎　恭治	非平衡と相転移
		伊藤　早苗	高温プラズマにおける揺動・構造と分岐
		L. Lederman	（ご都合が悪くなり、中止。代わりに会長報告"物理学会の活動を考える"を行う。）
50	1995	山田　安定	学際科学としての中性子散乱
		川畑　有郷	電気伝導の理論　−久保公式とランダウアー公式
		小林　誠	CP対称性の破れとBファクトリー

回	年	講演者	講演題目
51	1996	大貫　義郎	素粒子論50年を顧みて
		J. Robert Schrieffer	Concepts and Misconceptions in the Theory of Superconductivity
		植村　泰忠	（ご体調が悪くなり、中止）
52	1997	柳田　敏雄	生体分子が働くナノスペースをイメージングする
		戸塚　洋二	地底から宇宙をさぐる（スーパーカミオカンデによるニュートリノ観測）
		池内　了	宇宙の大規模構造は、どうしてできたか
53	1998	金森　順次郎	物理と化学を繋ぐd軌道
		清水　富士夫	原子波動光学
		上坪　宏道	動き出したSPring-8
54	1999	木舟　正	高エネルギーγ線と宇宙線
		佐藤　文隆	広島原爆調査と物理学者
		松本　元	脳のこころ
55	2000	戸田　盛和	物理学と数学の間
		久我　隆弘	レーザー冷却を用いた原子気体のボーズ・アインシュタイン凝縮
		西川　公一郎	長基線ニュートリノ振動実験とニュートリノ質量
56	2001	江沢　洋	物理は自由だ　−理科教育のために
		赤崎　勇	青色発光素子はいかにして創られたか
57	2002	霜田　光一	人と光の関わりから教育と研究を考える
		白川　英樹	高分子科学の発展と導電性高分子
58	2003	江崎　玲於奈	量子論と半導体先端技術　−超格子など半導体量子構造の発展
		小柴　昌俊	ニュートリノ天体物理学の誕生
59	2004	Chung-Nam Whang	The present status of KPS activities and physics in Korea
		西島　和彦	第二世代の出現
		北原　和夫	「理科離れ」社会から「安心・安全・信頼」社会への科学者の役割
60	2005	笠　耐	物理教育はどこへゆくのか
		秋光　純	超伝導の夢を追って
61	2006	十倉　好紀	光と磁場でつくる新物質相
		覧具　博義	物理教育への期待と課題
62	2007	＊レビューセッション開催のため、開催せず	
63	2008	北原　和夫	国民の科学力とは何か？ 科学オリンピック、科学リテラシー等の世界的動向と課題
		鈴木　厚人	高エネルギー物理学の展開とその推進
64	2009	＊レビューセッション開催のため、開催せず	
65	2010	滝川　洋二	仕分けられてよいのか？　物理学、基礎科学、科学教育
		Young Pak Lee	Korean Physical Society and quantum photonic science in Korea
66	2011	＊東日本大震災のため中止	
67	2012	村山 斉	Quantum Universe
		Daniel Shechtman	Discovery of Quasicrystal
68	2013	前野　悦輝	トポロジカル量子現象
		森田　浩介	113番新元素の合成と崩壊
69	2014	香取　秀俊	光格子時計：時空のゆがみを見る時計
		浅井　祥仁	ヒッグス粒子発見と今後の課題
70	2015	天野　浩	青色LEDの物理と今後の展開
		佐藤　勝彦	インフレーション宇宙論　−観測的実証への期待−
71	2016	安藤　恒也	グラフェンと関連原子層物質の物理的興味
		梶田　隆章	ニュートリノ振動とニュートリノの質量 −スーパーカミオカンデの観測から−